

本資料は2021年11月4日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版（要旨）です

## クレディ・スイスは、税引前利益が好調で前年同期比26%上昇の10億スイス・フランと公表、CET1比率14.4%とあわせて確たる資本基盤を強化

「クレディ・スイスは、好調な第3四半期の税引前利益およびCET1比率14.4%を報告しました。ウェルス・マネジメント事業は、経常手数料収益および顧客事業取引高が前年同期比で好調な勢いを見せるなか、次々に強固な新規純資産および高い取引収益へと戻りました。当行のスイス・ユニバーサル・バンク部門は、過去最高<sup>1</sup>の第3四半期の業績を達成しました。当行のアジア太平洋事業は、顧客によるレバレッジ解消にもかかわらず堅調に推移しました。当行は、リレーションシップ・マネージャーへの投資および中国におけるプレゼンスの構築を含むアジア太平洋地域への投資を継続します。当行のインベストメント・バンク部門は、アドバイザリー、キャピタル・マーケット、証券化商品およびエクイティ・デリバティブにおける好調な業績により、堅調に収益を上げました。アセット・マネジメント部門は、すべての収入ラインにおいて、基本的な業績がさらに向上したことを報告しました。また、当行は、全体的なリスク・コントロール基盤を強化するために断固たる行動をとり、投資家への現金還元を優先事項としてサプライチェーン・ファイナンス・ファンドの事案に対する改善努力を続け、過去の事案の解決に向けて大きく前進しました。当行の目標は明確です。当行は、投資家、顧客および社員の継続的な発展をもたらすためにリスク・マネジメントをそのDNAの根幹に据えた、より強固で、より顧客中心の銀行となることを目標としています。」

クレディ・スイス・グループ AG 最高経営責任者（CEO） トーマス・ゴットシュタイン

クレディ・スイス・グループ 公表財務指標（特に指定のない限り、百万スイス・フラン）	2021年 第3四半期	2021年 第2四半期	2020年 第3四半期	2020年 第3四半期比	2021年 1-9月期	2020年 1-9月期	2020年 1-9月期比
純収益	5,437	5,103	5,198	5%	18,114	17,168	6%
うち、ウェルス・マネジメント部門関連	3,270	3,609	3,164	3%	10,761	10,478	3%
うち、インベストメント・バンク部門	2,465	1,761	2,245	10%	8,114	7,381	10%
(百万米ドル)							
貸倒引当金	(144)	(25)	94	-	4,225	958	-
営業費用合計	4,573	4,315	4,301	6%	12,825	12,655	1%
税引前利益／（損失）	1,008	813	803	26%	1,064	3,555	(70)%
株主帰属純利益／（損失）	434	253	546	(21)%	435	3,022	(86)%
株主帰属有形株主資本利益率	4.5%	2.6%	5.4%	-	1.5%	9.8%	-
CET1比率	14.4%	13.7%	13.0%	-	14.4%	13.0%	-
CET1レバレッジ比率 <sup>2</sup>	4.3%	4.2%	4.5%	-	4.3%	4.5%	-
ティア1レバレッジ比率 <sup>3</sup>	6.1%	6.0%	6.3%	-	6.1%	6.3%	-
大幅な変動があった項目およびアルケゴスの事案*を除いた調整後の主な財務指標（百万スイス・フラン）	2021年 第3四半期	2021年 第2四半期	2020年 第3四半期	2020年 第3四半期比	2021年 1-9月期	2020年 1-9月期	2020年 1-9月期比
純収益	5,504	5,226	5,198	6%	18,160	16,766	8%
税引前利益	1,362	1,313	1,087	25%	6,271	3,514	78%

## 2021年第3四半期のハイライト

収益の堅調な伸びおよび貸倒引当金の純戻入れである 1 億 4,400 万スイス・フランにより、リスク選好をより保守的に維持しつつ、税引前利益は前年同期比で堅調に増加したものの、追加費用（継続的な訴訟問題に関連するものを含む）により一部相殺

- **株主帰属純利益**は、実効税率の上昇により前年同期比で 21% 減少し 4 億 3,400 万スイス・フラン。
- **公表した税引前利益**は、前年同期比で 26% 増加し 10 億スイス・フラン。これには、主に債権の将来の回収可能性評価に関連した引当金の戻入れによるアルケゴスに関する 2 億 3,500 万スイス・フランおよびオールファンズ・グループへの持分投資に関連した 1 億 2,900 万スイス・フランの収益が含まれます。これらの収益は、先月公表したモザンビーク事案に関連した和解金 2 億 1,400 万スイス・フラン、抵当貸付関連事案を含むその他の過去の事案やサプライチェーン・ファイナンス・ファンド（SCFF）の事案に関連した訴訟引当金を含む、5 億 6,400 万スイス・フラン<sup>4</sup>の主要な訴訟費用により相殺されました。またアセット・マネジメント部門においては、ヨーク・キャピタル・マネジメントに関する 1 億 1,300 万スイス・フランの追加減損を計上しました。
- **大幅な変動があった項目およびアルケゴス\*の影響を除いた調整後ベースにおいて、第 3 四半期の税引前利益**は前年同期比で 25% 増加し 14 億スイス・フランを計上しました<sup>5</sup>。
- **大幅な変動があった項目およびアルケゴス\*の影響を除いた調整後ベースにおいて、純収益**は、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門の純収益の減少により一部相殺されたものの、インベストメント・バンク部門、アセット・マネジメント部門およびスイス・ユニバーサル・バンク部門の純収益の増加により、前年同期比で 6% 増加しました。
- **公表した営業費用**は、前年同期比で 6% 増加し 46 億スイス・フラン。これは主に、主要な訴訟引当金および専門家費用の増加によるものです。調整後営業費用（大幅な変動があった項目およびアルケゴス\*を除く）は、戦略的イニシアチブへの継続的な投資により、前年同期比で 2% 増加しましたが、報酬費用の減少により一部相殺されました。
- **信用損失引当金の純戻入れ**である 1 億 4,400 万スイス・フランは、主にインベストメント・バンク部門のアルケゴスに関連する債権の将来の回収可能性評価における 2 億 200 万米ドル（1 億 8,800 万スイス・フラン）の戻入れによるものです。
- 2013 年から 2016 年にかけて実施したモザンビークの国営企業に対する貸付および関連する証券取引における過去の事案について、米国、英国およびスイスの規制当局と和解し、スイスの規制当局と過去の監視活動に関連する執行手続を締結しました。
- SCFF 事案における改善活動は継続的に進展しています。投資家への現金還元は引き続き優先事項であり、2021 年 9 月 30 日現在、支払われた現金総額ならびに現在の現金および現金同等物は約 70 億米ドルとなっています。

## 強固な資本基盤、安定した運用資産および 56 億スイス・フランの新規純資産

- **強固な資本基盤**を有しており、CET1 比率は、第 2 四半期末現在の 13.7% に対して、**第 3 四半期末現在は 14.4%**に上昇し、事業全体にわたり堅調な収益の創出およびリスク低減の恩恵を受けました。**ティア 1 レバレッジ比率は 6.1%、CET1 レバレッジ比率は 4.3%**。
- 2021 年第 3 四半期末の**グループ運用資産**は、前年同期比で約 10% 増加し 1.6 兆スイス・フランを超えました。アジア太平洋部門、スイス・ユニバーサル・バンク部門およびインターナショナル・ウェルス・マネジメント部門において、**新規純資産は 56 億スイス・フラン**であり、アセット・マネジメント部門の純資産流出を新規純資産で相殺しました。
- **ウェルス・マネジメント部門の運用資産**は前年同期比で約 9% 増加し **8,430 億スイス・フラン**となり、經常手数料は前年同期比で 14% 増加しました。

## 2021年1-9月期のハイライト

- 年初来の困難な状況にもかかわらず、当行の**2021年9月に終了する9カ月間の税引前利益は**、前年同期比70%減の**11億スイス・フラン**となり、これは主に、48億スイス・フラン（51億米ドル）のアルケゴスに関連して発生した費用に起因します。
- **大幅な変動があった項目およびアルケゴスの影響を除いた調整後ベースにおいて、税引前利益は**、インベストメント・バンク部門、スイス・ユニバーサル・バンク部門、アジア太平洋部門およびアセット・マネジメント部門の強力な寄与により、前年同期比で78%増の**63億スイス・フラン**となりました。また、営業費用は3%減少しました。
- **大幅な変動があった項目およびアルケゴスの影響を除いた調整後ベースにおいて、純収益は**、インベストメント・バンク部門、アセット・マネジメント部門およびアジア太平洋部門の成長に牽引され、前年同期比で8%増の**182億スイス・フラン**となり、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門の収益の減少によりわずかに相殺されました。
- 当グループ全体の**新規純資産は**、**2020年1-9月期における336億スイス・フランと比較して、293億スイス・フラン**。2021年1-9月期におけるウェルス・マネジメント事業の新規純資産は、2020年1-9月期の183億スイス・フランと比較して133億スイス・フランとなりました。

## 見通し

2020年の高水準に比べて取引環境が正常化するにつれて、特に各国の中央銀行がCOVID-19危機下で提供していた金融支援の終了を示唆し始めていることに伴い、全体として、2021年の残余期間の市場規模はさらに縮小すると予想しています。

ウェルス・マネジメントについては、運用資産の増加ならびにマンデートの需要の拡大により、経常手数料収益は引き続き恩恵を受けると予想しています。ウェルス・マネジメント部門およびインベストメント・バンク部門の取引ベースの収益については、通常の季節的な市場活動の鈍化に加えて、取引状況の正常化を反映した収益実績を予想しています。プライム・サービス<sup>®</sup>の大部分からの撤退により、株式の販売およびトレーディングの収益も減少すると予想されます。しかし、キャピタル・マーケットおよびアドバイザーの収益は、ECMおよびM&A双方の強力なパイプラインから引き続き恩恵を受けると予想しています。戦略アップデートに記載した通り、主に2000年のDonaldson, Lufkin & Jenrette社の買収に関連して、貸借対照表に残存するインベストメント・バンク関連ののれんについて、2021年第4四半期は最大16億スイス・フランの減損を見込んでおり、その結果、2021年第4四半期は純損失の計上を予想しています。これは非現金費用であり、当グループの自己資本比率や有形純資産を低下させるものではありません。

2021年第1四半期末に述べたように、2021年最終四半期の実効税率は大幅な上昇を続けると予想しています。

## サプライチェーン・ファイナンス・ファンドの事案に関する最新情報

取締役会は、SCFFの事案について外部主導による調査を依頼しており、同調査は特別委員会が監督しています。本件は、引き続き当行にとって注力事項であり、調査は継続中です。2021年第3四半期において、クレディ・スイスは、SCFFの事案に関連して訴訟引当金を計上しました。2021年第3四半期の財務報告書において開示した通り、当グループは、SCFFの投資家に代わって回復の可能性を引き続き評価し、新たな訴訟、係争中の訴訟または提起されるおそれのある訴訟に関してさらなる分析を行います。以前に報告した通り、この事案は解決時期を予測することが困難であり、当グループに重大な損失をもたらす可能性があります。

最新情報として、2021年9月末に第5回の現金支払いが行われたことにより、支払い済みの現金総額および現時点の現金および現金同等物は、2021年2月25日時点のファンドの純資産額（NAV）の約70%となっています。現金の支払いに関しては、2021年9月30日現在、投資家の皆様は、約63億米ドルを受け取っています。

当行の非注力分野における取組みは、引き続き順調な進展を見せており、社債のエクスポージャー残高は、2021年2月25日時点のエクスポージャーレベルから86%削減されました。現時点において、非注力分野は、2021年2月25日時点の純資産額の6億米ドルを占めています。

注力分野については、当行はあらゆる利用可能な回収手段を引き続き追求しており、現時点において、2021年2月25日時点の純資産額の約22億米ドルを占めています。GFG オーストラリアに関しては、当行は初回の支払いとして約9,600万米ドルを受け取っており、GFG オーストラリアは、残存する元金である約1億7,800万米ドル（利息を含む）を、2023年半ば<sup>7</sup>までに返済することに合意しています。

当行は、グリーンシル・バンクの協力を得て、保険金の請求に引き続き取り組んでおり、さらなる請求が行われる予定です。

最後に、当行は、当行のサービスに対する一部の手数料を免除することについて、SCFFの投資家と緊密に連携しています。

### 2021年第3四半期の業績と評価

当グループは、**2021年第3四半期において10億スイス・フランの税引前利益**を計上しました。これは、主に将来的な債権の回収可能性の評価に関する貸倒引当金戻入れによるアルケゴスに関する2億3,500万スイス・フランのプラスの影響、および1億2,900万スイス・フランのオールファンズ・グループに対する持分投資益の恩恵を受けたもので、モザンビークに関する問題に係る2億1,400万スイス・フラン、ならびに一部のその他の過去の問題（抵当貸付関連の問題を含む）およびSCFFの事案に係る引当金を含む、5億6,400万スイス・フランの主要な訴訟費用により一部相殺されました。また、当グループは、ヨーク・キャピタル・マネジメントに対する非支配持分の評価に係る1億1,300万スイス・フランの追加の減損を計上しました。当グループの**株主帰属純利益は4億3,400万スイス・フラン**と、以前示した通り、引き続き実効税率の大幅な上昇による影響を受けました。これは主に、アルケゴスの損失の税務上の認識が一部に留まったことによるものでした。当グループは、アルケゴスに関する将来的な債権の回収可能性の評価に関する戻入れを含む、1億4,400万スイス・フランの貸倒引当金戻入れを計上しました。これは、CECL 関連の貸倒引当金繰入額の増加により一部相殺されました。当グループのリスクに対するより保守的なアプローチにも関わらず、基本的な事業業績<sup>8</sup>は堅調でした。**大幅な変動があった項目およびアルケゴス\*の影響を除いた調整後純収益は55億スイス・フラン**（前年同期比6%増）、**大幅な変動があった項目およびアルケゴス\*の影響を除いた調整後税引前利益は14億スイス・フラン**（25%増）でした。

**ウェルス・マネジメント関連事業**は、33億スイス・フラン（前年同期比3%増）の純収益を計上しました。大幅な変動があった項目\*の影響を除いた調整後ベースでは、純収益は4%の増加でした。顧客事業取引高が増加したこと、およびマンドート浸透率が2020年第3四半期の28%から30%に増加したことによる恩恵を受け、経常手数料収益は12%増と堅調でした。また、トランザクション・ベースおよびパフォーマンス・ベースの収益は、6%増加しました。リスク選好の削減および主にアジア太平洋地域の顧客によるレバレッジ解消を反映した、預金金利および貸付金利の利ざやの低下による影響を受け、純利息収益は4%減少しました。

インベストメント・バンク部門は、プライム・サービスにおける RWA およびレバレッジ・エクスポージャーを削減するリスクおよび資本管理による統制が継続したにもかかわらず、堅調な基本的な業績<sup>9</sup>を達成しました。純収益は、前年同期比 10% 増の 25 億米ドルでした。インベストメント・バンク部門の業績には、2 億 200 万米ドル（1 億 8,800 万スイス・フラン）の貸倒引当金戻入れ、ならびにアルケゴスに関する 2,400 万米ドル（2,300 万スイス・フラン）の収益に対する恩恵および 2,600 万米ドル（2,400 万スイス・フラン）の営業費用の費用回収純額が含まれていました。アルケゴス<sup>\*</sup>の影響を除いた調整後純収益は、キャピタル・マーケット、M&A およびエクイティ・デリバティブにおける堅調な顧客取引により、9% 増加しました。プライム・サービスにおけるリスク削減が継続したことにより、債券の販売およびトレーディングの収益は前年同期比 13% 減少し、アルケゴスの影響<sup>\*</sup>を除いた株式の販売およびトレーディングの収益は 9% 減少しました。プライム・サービスを除いた株式の販売およびトレーディングの収益は、エクイティ・デリバティブの堅調な業績およびキャッシュ・エクイティの業績の伸びにより大幅に増加しました。キャピタル・マーケットの収益は 14% 増、アドバイザリーの収益は前年同期比 182% と大幅に増加しました。グローバル・トレーディング・ソリューションズの収益、インベストメント・バンク部門とウェルス・マネジメント事業の協働による収益は減少しました。これは一部には、資本利用の減少およびより保守的なリスク選好に加え、非常に好調だった 2020 年第 3 四半期に比べ取引高およびボラティリティが低下したことによるものでした。

当グループの営業費用は、前年同期比 6% 増の 46 億スイス・フランでした。これは主に、訴訟引当金の増加および専門家費用の増加を反映したものでした。大幅な変動があった項目およびアルケゴス<sup>\*</sup>の影響を除いた調整後営業費用は、2% の増加でした。これは一部には、IT インフラ、中国本土における事業の構築、およびアジア太平洋地域におけるプライベート・バンキングのカバレッジ・チームの拡大に対する投資、ならびにリスクおよび統制に対する投資を含む、各事業への戦略的投資を継続したことによるものでした。

2021 年第 3 四半期末現在、当グループは合計 1.6 兆スイス・フラン（前年同期比約 10% 増）の運用資産を計上しました。マンドート浸透率は、2020 年第 3 四半期に比べ 2 パーセント・ポイント増の約 30% となり、経常手数料収益を支えました。当グループの新規純資産は、2020 年第 3 四半期が 180 億スイス・フラン、2021 年第 2 四半期が 47 億スイス・フランの流出であったのに対し、2021 年第 3 四半期は 56 億スイス・フランとなりました。

当グループは、引き続き自己資本比率を改善し、CET1 比率は 2021 年第 2 四半期末現在の 13.7% に対して、2021 年第 3 四半期末現在は 14.4%、CET1 レバレッジ比率は 2021 年第 2 四半期末現在の 4.2% に対して、4.3% でした。当グループの CET1 比率およびレバレッジ比率は、各事業における堅調な利益創出およびリスク削減による恩恵を受けました。

## 2021 年 1-9 月期の業績と評価

アルケゴスおよび SCFF の事案、主な訴訟の引当金、ならびに特にインベストメント・バンク部門におけるリスクおよび資本管理に対するより保守的なアプローチによる影響にもかかわらず、当行のフランチャイズの根底にある回復力は、2021 年最初の 9 カ月間の業績を見れば明らかです。

大幅な変動があった項目およびアルケゴス<sup>\*</sup>の影響を除いた調整後ベースでは、当行の純収益は前年同期比 8% 増の 182 億スイス・フランとなりました。これは、インベストメント・バンク部門、アセット・マネジメント部門およびアジア太平洋部門における収益の増加が、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門における収益の減少により一部相殺されたことによるものです。

2021年1-9月期において、**大幅な変動があった項目およびアルケゴスの影響を除いた調整後税引前利益**は、前年同期比78%増の**63億スイス・フラン**となりました。これは、大幅な変動があった項目およびアルケゴスの影響を除いた調整後税引前利益が、前年同期比6%減となったインターナショナル・ウェルス・マネジメント部門を除く多くの部門において増加したことによるものです。また CECL 関連の貸倒引当金純戻入額 2億700万スイス・フランおよび大幅な変動があった項目およびアルケゴスの影響を除いた調整後営業費用の減少(3%減)を反映していますが、これは主にアジア太平洋部門におけるリレーションシップ・マネージャーの採用およびリスク管理への投資を含む戦略的イニシアチブに対する投資により一部相殺された報酬費用の減少を反映したものです。

**ウェルス・マネジメント関連事業**は、108億スイス・フラン(前年同期比3%増)の純収益を計上しました。大幅な変動があった項目の影響を除いた調整後ベースでは、純収益は2%増加しました。これは、経常手数料収益の増加(前年同期比10%増)ならびにトランザクション・ベースおよびパフォーマンス・ベースの収益の増加(同3%増)によるものであったが、純利息収益の減少(同6%減)により一部相殺されました。

**インベストメント・バンク部門**は、81億米ドル(前年同期比10%増)の純収益を計上しました。アルケゴスの影響を除いた調整後純収益は、堅調な収益環境を反映して17%増加しました。債券の販売およびトレーディング部門の収益は前年同期比で6%減少し、株式の販売およびトレーディング部門の収益は25%減少(アルケゴスの影響を除くと1%<sup>10</sup>増加)しました。キャピタル・マーケット部門の収益は堅調な市場と顧客活動の増加により69%増加し、アドバイザリー部門の収益はM&A活動の大幅な増加により、50%増加しました。

2021年1-9月期の**新規純資産**は、2020年1-9月期の336億スイス・フランに対し、293億スイス・フランでした。これは、スイス・ユニバーサル・バンク部門による82億スイス・フラン、インターナショナル・ウェルス・マネジメント部門による83億スイス・フラン、アセット・マネジメント部門による99億スイス・フランおよびアジア太平洋部門による18億スイス・フランの寄与によるものです。

本資料はクレディ・スイス・グループが発表したメディアリリースの翻訳版(要旨)です。メディアリリースの正確な内容は、クレディ・スイス・グループの[ウェブサイト](#)に掲載されたオリジナル版をご参照ください。

\* 当グループの業績に含まれる一定の項目除いた業績を示しています。これらの業績は、非 GAAP の財務指標です。最も直接的に比較可能な米国 GAAP 指標との調整については本メディアリリースオリジナル版の別表をご参照下さい。

\*\* 法令諸規則上、日本では実施されません。

## 脚注

- 1 2018 年第 1 四半期に開始後、修正再表示された四半期以降。
- 2 2020 年第 3 四半期および 2020 年 1-9 月期におけるレバレッジ・エクスポージャーは、FINMA に要求されて 2020 年度に支払われた配当金の調整後、中央銀行預け金 1,100 億スイス・フランを除きます。FINMA は、COVID-19 のパンデミックに対応するレバレッジ比率の計算を目的として一時的な除外を発表しました。かかる一時的な措置は、2021 年 1 月 1 日時点で失効しました。
- 3 2020 年第 3 四半期および 2020 年 1-9 月期におけるレバレッジ・エクスポージャーは、FINMA に要求されて 2020 年度に支払われた配当金の調整後、中央銀行預け金 1,100 億スイス・フランを除きます。FINMA は、COVID-19 のパンデミックに対応するレバレッジ比率の計算を目的として一時的な除外を発表しました。かかる一時的な措置は、2021 年 1 月 1 日時点で失効しました。
- 4 4 億 9,500 万スイス・フランの主要な訟引当金および 6,900 万スイス・フランの主要な訴訟関連評価調整額で構成されています。
- 5 2016 年第 3 四半期以降。
- 6 インデックス・アクセスおよびアジア太平洋部門のデルタ・ワンを除きます。
- 7 GFG オーストラリアの数値の算出を目的として、豪ドル/米ドルの外国為替換算レート（1 豪ドル=0.7416 米ドル）が使用されました。
- 8 基本的な業績とは、大幅な変動があった項目およびアルケゴスの影響を除いた調整後税引前利益をいいます。
- 9 基本的な業績とは、アルケゴスの影響を除いた調整後税引前利益をいいます。
- 10 2021 年 1-9 月期の株式の販売およびトレーディングの収益から、5 億 1,800 万米ドルのアルケゴスに関する損失を除きます。